

# 令和4年度 事業報告書

## — 日本の医療を変える大学を作る —

令和4年度は、令和健康科学大学が開学した年度であり、新たな伝統の構築を念頭に置きつつ、大学設置計画書に基づき運営した1年間であった。

第1期の入学生は、看護学部看護学科98名、リハビリテーション学部理学療法学科76名ならびに作業療法学科31名の合計205名であった。

また教職員は、教授19名、准教授6名、講師11名、助教5名(令和4年4月1日現在)を採用した。

初年度であることから、様々な課題に対応するためのルールを構築した。また、4月以降新型コロナウイルス感染症の拡大が教育に及ぼした影響も大きく、その対策に追われる1年でもあった。

このような状況においても、設置計画書に記載した計画については、概ね実施することができたと自己評価する。また、令和4年度の状況を踏まえつつ、教務、学生支援、研究、入試広報、情報管理や会計等の分野で各々の業務の見直しが行われ、入学者の状況も改善している。

教員の就任辞退等に起因する教員の補充など、専任教員の補充についても、カリキュラムに影響を及ぼさないように適切に対応している。

令和5年度以降は、新設大学としての目的を構成員が共有し、新たな伝統を構築するとともに、設置計画を着実に履行する。また、高度職業人養成のための大学院の設置に向けて準備を進める。

令和4年度の実施状況に関する詳細は、以下のとおりである。

### 1. 教育

#### 計画

多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力を基盤とし、倫理観及び探究心を統合した実践力を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職を養成するための教育課程を編成し実施する。

#### 実施状況

事業計画に基づき、教育課程の編成及び実施を推進するとともに、学生の成長を支援する方策を実施した。2年次には、退学者、休学者を除き看護学科97名、理学療法学科73名、作業療法学科29名、計

198 名が 2 年次に進級した。

### 1) カリキュラムの実施

計画への記載事項は、本学の設置計画書よりの転記であるが、初年度のカリキュラムとしては計画通りに実施することができた。

カリキュラムの運営に当たっては、開学当初と言うこともあり、教務委員会において、様々な課題に対応するためのルールを構築した。

検討を行った主な事項は以下のとおりである。

- ①出欠管理
- ②出席変更願の提出
- ③公認欠席の取扱い及び変更処理
- ④定期試験における受験資格の確認
- ⑤再試験対象学生の公表方法
- ⑥定期試験の答案の返却
- ⑦成績評価
- ⑧学生の剽窃行為の防止対策
- ⑨履修要件と進級要件
- ⑩教務委員会の下部委員会の設置

### 2) 教員の補充

教育内容の充実及びカリキュラムの実施には影響が生じないように、後任教員を検討し「専任教員採用等設置計画変更書類 (AC 教員審査)」を文部科学省へ提出した。なお、一部の分野については、引き続き補充の検討を行っているところである。

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

所属	就任辞退等教員	補充教員氏名	就任時期等
看護学科	K 准教授	選考中	
	N 教授	選考中	
理学療法学科	Y 教授	稲川教授	令和 4 年 9 月 1 日
		山口教授	令和 4 年 9 月 1 日
	K 教授	(富永教授)	
		野中助教	令和 4 年 9 月 1 日

教員全体の数は、以下のとおり。

	5 年 4 月採用予定者				4 年度末在職者				計				合計
	大 学	看 護	理 学	作 業	大 学	看 護	理 学	作 業	大 学	看 護	理 学	作 業	
学 長	1								1				1

教授		3	1	1	1	6	8	5	1	9	9	6	25
准教授		1				3	2	1		4	2	1	7
講師		3				5	4	2		8	4	2	14
助教		2	4	1		1	3	3		3	7	4	14
助手		7				1							8
特任	2				2	(2)			4				4
計	3	16	5	2	3	16	17	11	6	32	22	13	73

また、令和5年4月1日付けで、学生の健康管理の充実のために健康支援センターを設置し富岡特任講師を、大学院設置準備のために大学院設置準備室に正野特任教授を採用する予定である。

### 3) 学生支援

学生の大学での生活においては、正課教育と共に正課外の生活も重要である。

本学では、学生委員会と学務課学生係が中心となって、学生支援活動を展開した。

学生支援活動の詳細は、以下のとおりである。

#### i) 学生指導

入学式の翌日に、入学生に対するオリエンテーションを実施し、学生生活全般に関する説明を実施した。また、7月27日に、福岡県警東警察署の協力のもと、防犯に関する意識付け及び知識等の向上につなげて学生身の安全確保を図るために、新入生全員を対象とした「防犯講座」を開催した。

各学科では、クラス担任制あるいはアドバイザー制度として指導教員を配置し、学生指導を行った。クラス担任制あるいはアドバイザー制度の導入により、学生の修学上の事項を中心に相談を行ったことは、修学及び学生の生活支援において有益であった。

また、学生懲戒の基準及び学生表彰規程を定めた。

#### ii) 経済的支援

新入生を対象とした、日本学生支援機構の説明会を開催した。

日本学生支援機構の奨学金受給者の対象は以下のとおりである。

奨学生人数（令和4年度入学生）

看護学科	70人
理学療法学科	46人
作業療法学科	21人
合計	137人

奨学金種類別内訳（令和4年度入学生）

種類 学科	給付				給付合計	貸与 第一種	貸与 第二種
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	停止			
看護学科	3人	2人	6人	1人	12人	34人	52人
理学療法学科	5人	4人	2人	0人	11人	24人	33人
作業療法学科	7人	0人	2人	1人	10人	10人	13人
合計	15人	6人	10人	--3-2人	33人	68人	97人

iii) 大学や病院でのアルバイト斡旋

大学では「校内芝生等の草取り」アルバイト(時給 1,000 円)を 15 名採用して行った。

また、病院では福岡和白病院での「ケアワーカー」アルバイト(時給 900 円～)や、福岡和白病院内厨房での「食器洗浄」のアルバイトを斡旋した。

図書館においては、時間外の窓口業務のため、放課後の時間を利用したアルバイトとして 3 名の学生を採用した。

iv) 本学特待生の選考について、2 年次以降の選考の具体的な基準などを定めた。

v) 外活動支援

開学当初より新入生の中から、課外活動を行いたい旨の要望があったことから、サークル活動の設立申請を受付けるとともに、顧問の在り方や施設利用のルール等の検討を行った。令和 4 年度には、16 件のサークル活動が登録された。一部のサークル内で新型コロナウイルス感染症が確認されたため、7 月には体育館の使用を中止する事態となったが、10 月には感染防止を徹底し、安全な環境でサークル活動を再開させるためのガイドラインを制定して活動を再開した。

また、学生委員会では、学生の自主的運営活動の組織としての学友会(仮称)の設置について、検討を行った。

学園祭の開催については検討が行われたが、新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、令和 4 年度の開催は見送られた。

vi) 学生寮、学生アパート

本学は学生寮、学生用アパート「サンビュー和白」および「トピア唐原Ⅱ」を管理しており、学生の入居を斡旋している。

大学としては、福岡和白リハビリテーション学院、福岡看護専門学校の学生も併せて入居させていることから、寮生会の運営、入居者の入居ルールの遵守等に配慮してきたところである。また、学生寮入居者への朝食と夕食の提供については、「あきの会」の協力を得て学生食堂において実施している。

また、学生寮入居学生の新型コロナウイルス感染者の発生については、福岡和白リハビリテーション学院の教員とも協働して対応することで感染者の拡大を防ぐことができた。

なお、3 施設とも老朽化している箇所については、改修を行った。

vii) 保健管理

開学当初から、新型コロナウイルス感染症への対策を行ってきたが、前期を中心に感染者数が増加し、学校保健師等は、感染者の把握、濃厚接触者の追跡、学内の感染対策、学内での情報共有など多様な業務に対応した。

また、一般定期健康診断を実施するとともに、感染対策委員会のもとで、健康管理ファイルの作成やワクチン・オリエンテーションを開催し、学生のワクチン接種履歴の把握に努めた。

心の健康については、福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の非常勤カウンセラーに令和健康科学大学の学生に関する相談にも対応していただけるように依頼した。

また、学生の身体面と精神面の健康を支援するため、令和 5 年 4 月に健康支援センターを設置する。

viii)その他

- ・クリスマスツリー・イベント等

11月26日に、キャンパスにイルミネーションを設置し点灯した。

3学科の学生が飾り付けたクリスマスツリーを、12月9日に2号館1階グローバルサロンに設置した。

- ・鏡開き 1月11日に『鏡開き』（ぜんざい配布）を開催した。

## 2. 研究

### 計画

健康科学の学問的発展を目指し、幅広い観点から実践的研究を推進する。

### 実施状況

本学が、将来にわたり高度な教育研究を維持し、健康科学全般の実践的研究を推進するため、科学研究費補助金の獲得等を支援するとともに、研究環境の整備を行った。

#### 1) 科学研究費補助金（科研費）の採択状況

本学が標榜する健康科学に関する個々の教員の研究課題を推進する観点より、科研費の獲得を目指した。8月5日に科研費への効果的な申請を支援するために、「科研費応募支援企画 レクチャーと申請手続き説明会」を開催した。

令和4年度の採択状況は、以下のとおりである。

学 部	新 規	左記内訳	継 続	左記内訳	科研費獲得額
看護学部	代表 3件 分担 1件	基盤C 3件 若手 1件	代表 6件 分担 6件	基盤B 2件 基盤C 9件 研究スタート1件	直接経費 29,683,905円 間接経費
	代表 5件 分担 2件	基盤C 2件 若手 3件	代表 5件 分担 2件	基盤C 1件 挑戦 1件 若手 4件 研究スタート1件	4,529,399円

#### 2) 大学支援研究費による研究支援

大学が独自に教員の研究を支援するための研究補助金として、「大学支援研究費」を設置した。令和4年度は総額400万円の研究費について、科研費を申請したが不採択となった研究者や、本学への異動のために科研費の申請が出来なかった教員らを対象として公募がなされた。その結果、研究計画書の審査を経て8名に、40～100万円の研究費が支援され有効に活用された。現在、研究成果の報告書の提出を実施しているところである。

### 3) 研究倫理、研究不正への対応

研究不正に関する規程等については、4月に制定し、ホームページにおいて公開した。

研究倫理を理解するため、全教員を対象にしたWebによる研修「APRIN eラーニングプログラムを4月に実施した。また、研究事務を担当する事務職員についても、研究費不正の防止に関する研修会を実施した。

また、研究倫理については、3月6日に大分大学医学部今井浩光教授による研究倫理講演会「研究倫理の基本のき」を開催し、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の変更点を中心に、研究倫理に関する考え方を学んだ。

令和4年度は、研究倫理審査37件、利益相反45件を審査した。

## 3. 地域連携・社会貢献

### 計画

地域の現状に沿った活動を展開し、開かれた大学として地域の人々へ学びの場を提供するとともに、地域住民の健康増進と健康な生活づくりを推進する。

### 実施状況

本学を取り巻く自治体、地域及び他の教育機関等との連携を図った。

#### 1) 福岡未来創造プラットフォームへの参加

福岡市を中心とする高等教育の振興と地域社会の活性化を目的として、福岡都市圏に位置する大学・自治体・産業界で構成された「福岡未来創造プラットフォーム」に加入し、学生募集作業部会における広報活動に参画した。

#### 2) 和白公民館との協定

和白校区自治協議会と連携を深め、従来から要望が強かった災害時の臨時避難所設置について協定を締結し、非常時に和白地区から要請があれば体育館を開放するという協定を締結した。

また、地域の住民の方々からの要望により、適宜に大学見学会を実施し、本学への理解を深めていただいた。

#### 3) 福岡工業大学との協定

大学共通テスト利用選抜の実施にあたり、福岡工業大学と共同実施する形態をとる旨の協定を、福岡工業大学と締結した。

#### 4) インクルーシブ・フェスタ

NPO法人列島会、社会福祉法人あきの会等が主催するインクルーシブ・フェスタ実行委員会の活動を後援し、「インクルーシブ・フェスタ(第1回 6月11日、第2回 11月12日)」の会場として体育館を

提供するとともに、教職員と学生がボランティアとして参加した。

## 4. 組織運営

### 計画

学長が、学部長等との緊密な連携により、自らのリーダーシップを発揮し、教育研究面の管理運営を執り行う体制を構築するとともに、理事会との緊密な連携のもと将来構想等の検討を行なう。

### 実施状況

#### 1) 大学運営会議

本学の運営に関する重要事項を審議するとともに、法人との連携を深めるために、計 30 回の大学運営会議を学長の主導により開催した。

主たる議題は、以下の通りである。

回数	開催日	審議・報告	議 題
1	4月1日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議の業務について</li> <li>・大学運営会議の運営について</li> <li>・教授会の運営について</li> </ul>
2	4月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生の状況について（報告）</li> <li>・令和5年度入試日程について</li> <li>・教授会の運営について</li> <li>・令和健康科学大学大学院開設準備室設置について</li> <li>・理学療法学科教員の公募について</li> </ul>
3	4月20日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況について</li> <li>・令和健康科学大学 大学院設置準備室の立ち上げについて</li> <li>・大学支援研究費助成に係る募集要領について</li> <li>・リハビリテーション学部理学療法学科教員の公募について</li> <li>・各種委員会について</li> <li>・開学記念コンサートについて</li> <li>・研究関係規程の整備について</li> </ul>
4	5月11日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験委員会（令和4年4月22日開催）からの提案について</li> <li>・福岡工業大学との大学入試共通テストに関する協定書の締結について</li> <li>・大学支援経費の審査方法について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カマチグループ“看護を考える”講演会について</li> <li>・ 2, 令和健康科学大学開学記念コンサートについて</li> <li>・令和4年度事業活動収支予算について</li> <li>・福岡和白病院でのリハビリテーション学部教員の研修について</li> </ul>
5	5月18日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度・学校推薦型選抜入試の指定校の選考について</li> <li>・令和5年度・一般選抜(前期日程)入試の地方会場の選定について</li> <li>・大学広報活動の計画について</li> <li>・「大学支援研究費助成の審査要領」について</li> <li>・福岡未来創造プラットフォームについて</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議への付議・報告・連絡のプロセスについて</li> <li>・開学記念コンサートについて</li> </ul>
6	6月1日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回議事録について</li> <li>・風疹に関する対応について</li> <li>・大学支援研究費について</li> <li>・研究委員会等の委員長の交代について</li> </ul>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法学科の教員公募について</li> </ul>
7	6月15日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画履行状況報告等について</li> <li>設置履行状況報告及びAC教員審査について</li> <li>平成4年度AC教員審査日程について</li> <li>・リハビリテーション学部理学療法学科の教員選考について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入試ガイド」の作成について</li> <li>・献血関係行事について</li> <li>・風疹の疑いがある学生の検査結果について</li> <li>・学園祭について</li> </ul>
8	7月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策委員会からの感染情報共有に関する提言について</li> <li>・学校推薦型選抜における指定校の追加について</li> <li>・国試対策に関する取り組みについて</li> <li>・2年次以降の特待生の選考方法等について</li> <li>○報告事項</li> <li>・リハビリテーション学部理学療法学科における教員選考について</li> <li>・高等学校教員説明会及び入試説明会について</li> <li>・設置計画履行状況等調査(実地調査)の実施について</li> </ul>
9	7月20日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次救命処置研修会」の開催について</li> <li>・コロナ感染症への対応について</li> <li>・大学院設置に関する組織について</li> <li>・理学療法学科専任教員の選考について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会から報告について</li> <li>・国際化推進委員会からの報告について</li> <li>・専門職連携教育「専門職連携に求められる心構え」について</li> <li>・規程の制定について</li> <li>(1) 特待生選考規程について</li> <li>(2) 学生懲戒規程について</li> <li>(3) 災害等における休講等に関する申し合わせについて</li> <li>・三校調整会議について</li> </ul>
10	8月3日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員人事の進捗状況について</li> <li>・大学院設置に関する進捗状況について</li> <li>・オープンキャンパスの開催状況について</li> <li>・合同学術研究発表会について</li> </ul>
11	8月10日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員等選考規程の制定について</li> <li>・教員選考内規の制定について</li> <li>・学会への広告掲載について</li> </ul>
12	8月24日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の保護者との懇談会について</li> <li>・学園祭について</li> <li>・大学執行部について</li> </ul>
13	9月7日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議構成員について</li> <li>・規則の制定等</li> <li>・副学科長に関する規程</li> <li>・教授会規則(改定)</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「IPW 推進への誓いのつどい」について</li> <li>・オープンキャンパス実施報告</li> </ul>
14	9月21日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人巨樹の会 組織図について</li> <li>・リハビリテーション学部の実習計画について</li> <li>・全学委員会名簿について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期学生講義時の座席指定について(感染対策委員会)</li> <li>・看護学部の学生便覧の改訂</li> <li>・令和5年度総合型選抜/社会人選抜入試および学校推薦型選抜入試における大学運営会議の報告日程検討</li> </ul>
15	10月15日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上プロジェクトについて</li> <li>・第2回インクルーシブフェスタについて</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程の改訂</li> <li>・情報管理委員会</li> <li>・臨床シミュレーションセンター運営委員会”</li> </ul>

16	10月19日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動の再開について</li> <li>・大阪歯科大学施設見学について</li> <li>・10/1(土) オープンキャンパスについて実施報告</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会における委員の増員について</li> <li>・大学入学前プログラム選定に関して</li> <li>・看護学科 成人看護学領域の准教授候補者について</li> <li>・AC 教員審査について (リハビリテーション学部)</li> </ul>
臨時	10月27日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度 総合型選抜/社会人選抜入試の入学試験合格者の選考結果について</li> <li>・看護学部教員選考委員会に関する報告</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和健康科学大学大学院の設置構想について</li> </ul>
18	11月2日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会決定事項</li> <li>・懲戒・表彰規程について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員公募について</li> <li>・看護学部在宅看護学領域について</li> <li>・理学療法学科(神経領域)について</li> </ul>
19	11月16日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会の下部組織について</li> <li>・入学前プログラムについて</li> <li>・教員人事委員会の報告(理学療法学科)</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の教員人事委員会の立ち上げに関して(理学療法学科)</li> <li>・昇格人事の AC について</li> <li>・教員候補者の面接審査のあり方について</li> <li>・学友会に向けた設立準備委員会の設置について(学生委員会)</li> </ul>
20	12月1日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度 学校推薦型選抜入試の入学試験合格者の選考結果について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学施設利用規程(案)について</li> </ul>
21	12月7日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策委員会より</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学施設利用規程(案)について(継続審議)</li> <li>・和白丘自治協議会との協定について</li> <li>・令和4年度間接経費執行状況と執行(案)</li> </ul>
22	12月21日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東義大学について(国際化推進委員会)</li> <li>・令和5年度 学校推薦型選抜(指定校制・公募制)入学試験(追試験)合格者選考結果について</li> <li>・令和5年度学年暦ならびに入学式日程について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理審査の申請書式改定案について(研究委員会)</li> <li>・臨床実習支援システムの導入について(理学療法学科)</li> <li>・基礎学力向上プロジェクト報告</li> <li>・令和5年度一般選抜前期日程選抜及び大学入学共通テスト利用選抜並びに一般選抜後期日程選抜入試における大学運営会議の報告日程検討</li> </ul>
23	1月11日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法学科 富永教授の役職名について</li> <li>・春のオープンキャンパスの日程について</li> <li>・学生の成績不良者の件</li> <li>・大学院設置準備室の現況について</li> </ul>
24	1月18日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学事業計画について</li> <li>・学生の出席指導について</li> <li>・令和5年度 看護学科助手の採用について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理組織の設置について</li> <li>・教員選考規程の特例に関する申し合わせ</li> <li>・第29回日本看護診断学会学術大会における広告掲載について</li> <li>・令和5年度の2号館7・8階教員研究室配置(案)について</li> </ul>
25	2月10日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜(前期日程)試験および大学入学共通テスト利用選抜の合格者の選考について</li> <li>・健康支援センターの設置について</li> <li>・学生相談室特任講師の採用について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の日程について</li> <li>・学友会設置準備委員会について</li> <li>・AC 教員審査結果について</li> <li>・看護学科助手採用の件</li> <li>・看護学科教員辞退について</li> </ul>

26	2月22日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜（前期日程）追試験の合格者の選考について</li> <li>・入学手続き状況について</li> <li>・健康支援センター長について</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度予算の件</li> <li>・裁量労働制について</li> </ul>
27	3月1日	審議	・今後の本学における新型コロナウイルス感染症対策について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AC 教員審査について</li> <li>・カンファレンスルーム改装ならびに学食増席について</li> </ul>
28	3月7日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜後期入試合格者選考について</li> <li>・令和4年度 設置計画履行状況等調査の結果について</li> <li>・令和4年度大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財政状況及び施設等整備状況調査の結果について</li> <li>・2023年度 学生募集イベントの日程について</li> </ul>
		審議	・和自校区自治協議会より本学の地域避難所としての利用について
29	3月16日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の道路横断及び見回り報告について</li> <li>・学籍異動について</li> <li>・入学式、辞令交付、新入教職員オリエンテーションについて</li> </ul>
		審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のAC 審査結果について(理学療法学科 内部障害系教員)</li> <li>・看護学科教授(看護管理学)採用について</li> </ul>
30	3月27日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試後期選抜Ⅱの入試結果について</li> <li>・2023年度 学生募集イベントの日程について</li> </ul>

## 2) 委員会活動

各種委員会の審議内容は別紙のとおりである。各々の課題について審議を行い、大学運営会議の審議を経て実施した。

## 3) 大学院の設置構想

大学院の設置構想について検討が行われたが、具体的な内容については令和5年度に審議して決定することになった。

## 4) FD・SD

本学の教育研究の質の向上を図り、また課題の解決を図るために、様々な研修会が企画、運営された。実施状況は、以下のとおりである。

### <全学FD集計>

区分	全学									
名称	新任教員オリエンテーション	全体朝礼	APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)	「科研費」応募支援企画 レクチャーと申請手続き説明会	大学の事務職員として～自信を持って元気に仕事ができるように～	令和4年度心の問題と成長支援ワークショップ	令和4年度障害学生支援実務育成研修会[基礎プログラム]	「福岡県若者就職支援センター」事業説明会	令和健康科学大学共通基礎コース(職員)	
対象	教員	教職員	教員	教員	事務職員	大学教職員	大学教職員	大学教職員	事務職員	
開催主体	全学	大学	研究委員会	研究委員会	大学	独立行政法人日本学生支援機構	独立行政法人日本学生支援機構	福岡県若者就職支援センター	研究委員会	
開催期日	4月1日	毎週水曜日	4月	8月25日	1グループ:9月5日 2グループ:9月30日	8月22日 9時50分～17時20分	9月13・14日 9時50分～16時55分	5月31日(火) ①13:30～14:00 ②14:10～14:40		
目的	4月1日付新入教職員の紹介ならびに、本学の沿革、グループの理念等を案内、また各種連絡等オリエンテーションを兼ねた内容である。大学の概要を理解する	全教職員に対し、学長より訓示、教員挨拶、連絡事項等を共有し連携を図る	研究倫理を理解する	教員に対し科研費の効果的な申請を支援する	本学グループ病院(新小文字病院)の看護師による接遇研修。心のこもった対応を行い、マナーアップにつなげる。	現代学生の心の問題、成長支援に関するニーズの理解を深め初期対応ができるようになる	教育機関における障害学生支援に関する知識等の習得を目的	今後の大学生就職支援に向けて、若者就職の現状把握の為	研究に係る業務に携わる職員として必要な知識の獲得及び資質向上	
実施方法	対面	対面	eラーニングプログラム	対面及びzoom	対面	Zoomによる配信	Zoomによる配信	Zoomによる配信	eラーニングプログラム	
参加者数	教員51名、事務22名	全教職員	20名	会場参加12名・Zoom参加44名	事務職員	Zoomによる配信1名	Zoom参加1名	Zoom参加8名	11名	

<学部FD集計>

区分	看護学部看護学科									
名称	臨床実践中心型カリキュラム：IDとADDIEモデル_分析	臨床実践中心型カリキュラム：IDとADDIEモデル_設計	臨床実践中心型カリキュラム：教授カリキュラムマップ作成(演習)	臨床実践中心型カリキュラム：ADDIE_開発(メリルのID第一原理、GBS理論)	臨床実践中心型カリキュラム：心不全の看護を用いた例示、実施、評価	臨床実践中心型カリキュラムの実践：生活援助技術『コミュニケーション技術』	臨床実践中心型カリキュラム_授業設計の実際(演習)	シミュレーション教育と臨床実践中心型カリキュラムについて	シミュレーション教育の方法について	シミュレーション教育への導入の工夫(演習)
対象	看護学部教員(9月から大学院準備室教員含む)									
開催主体	臨床シミュレーションセンター主催、看護学部FD・SD委員会後援									
開催期日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日	6月15日	6月22日	7月6日	11月14日	11月14日	12月1日
目的	看護学部における教育の特長の1つである「臨床実践中心型カリキュラム」および「シミュレーション教育」について理解を深め、導入・構築を支援する									
実施方法	会場での対面講義及び演習									
参加者数	18名	19名	18名	15名	15名	19名	19名	19名	19名	20名
区分	リハビリテーション学部理学療法学科					リハビリテーション学部作業療法学科				
名称	大学におけるFDとは	理学療法学科の教育外観図の実現に向けて	協同学習の授業研究について	協同学習の授業研究について	作業療法学科FD研修会令和5年度科研費応募研究予演会	作業療法学科FD研修会「今どきの高校生を知ることから始まる大学の初年次教育1」	作業療法学科FD研修会「今どきの高校生を知ることから始まる大学の初年次教育2」			
対象	理学療法学科	理学療法学科(プロパー)	理学療法学科	理学療法学科	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科			
開催主体	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科			
開催期日	7月29日13:00~14:00	11月1日10:00~11:30	12月1日13:00~14:30	12月6日11:00~12:00	9月1日~14日	11月24日13:00~14:30	1月下旬~2月下旬			
目的	理学療法学科教員に対しFDとは何かを理解してもらうため	理学療法学科の教育外観図の実現に向けた検討	協同学習の方法論について授業実践(聴講)	12.01の授業を受けての意見交換	研究内容の精度を高め科研費獲得を目指す	学生指導の参考とする	学生指導の参考とする			
実施方法	対面	対面	対面	対面	応募者のプレゼンテーションと質疑応答	奥田邦夫先生の講演および意見交換	糸島高校の先生の講演および意見交換			
参加者数	15名	12名	12名	13名	6名	6名	20~30名			

## 5. 施設整備

### 計画

施設設備の不断の点検を行い、質の高い教育研究の基盤となる施設設備の充実を図る。

### 実施状況

#### 1) 食堂、売店

学生・教職員の福利厚生の上昇のために、1号館1階を改修して学生食堂を設置し、6月1日から営業を開始した。

また、売店は6月13日に「Yショップ令和健康科学大学売店」として営業を開始した。

#### 2) 上空通路

本学キャンパスは、県道59号線を跨って設置されており、従前から当該道路の乱横断が頻発することから、学生の安全への心配と共に、学生が交通ルールを守らないことへの地域住民からのご批判も多く寄せられる状況であった。本学は、上空通路(歩道橋)の設置を計画し、福岡市等との協議を重ねてきたところ、建設に関する認可を得たことから工事に着工した。

工事は、令和5年3月15日に竣工し、同日地域の住民、大学関係者等による開通式を挙行了した。

### 3) 学生寮、アパートの整備

学生寮については、設置から30年が経過しているため建物の老朽化が激しく、改修工事を行い、入居率の向上を図った。また、寮費を見直すとともに、一人部屋を設定する等、学生の選択肢を広げることにより、入居者の拡大を目指した。

学生アパート トピア唐原Ⅱについても、築30年を経過したことから、業者と協議の上、外壁補修工事と部屋内装(リフォーム)工事を行うこととなった。

## 6. 財務基盤

### 計画

学生獲得のため広報活動を充実させるとともに、経費の効率化を図る。

### 実施状況

#### 1) 広報活動の充実

学生獲得のための広報活動は、広報委員会及び広報係を中心に実施した。さらに、カマチグループの多くの関係者に広報活動に参画いただいたうえで、高校の校長経験者により組織された広報活動の効果もあり、大学志願者数の増加につながった。

広報委員会は、令和4年5月16日(月)に第一回の広報委員会を開催し、全10回の広報委員会を実施した。

主な内容は、学生募集に関する施策及びイベント内容の検討を行った。

教員対象大学説明会は、6月17日(金)対面、6月21日(火)オンライン、6月24日(金)対面に実施した。参加校の合計は51校で52名の高校教員が参加した。

オープンキャンパスは、令和4年7月10日(日)、7月31日(日)、8月20日(土)、10月1日(土)、12月18日(日)ならびに令和5年3月18日(土)に実施した。各日程別にテーマが異なるプログラムで、受験対象者のニーズに合わせたイベントを実施した。

資料請求数(のべ数)は、令和4年度は、15,025件で、令和3年度と比較して、13%増加した。

また、学生広報チームによる広報を展開し、オープンキャンパスにおいては、相談ブース対応や案内業務等において活躍した。

#### 2) 入試状況

令和4年度入学生の、入試状況等は以下のとおりである。

令和4年度は、初年度の入試で、入学願書提出期限までの広報活動の時間が限られていることもあり、志願状況、入試状況等は以下のとおりとなった。

また、入学辞退者数についても、予測することが難しく、看護学科においては98名が入学し、入学

定員を大きく上回る結果となった。

上記を踏まえ、令和4年度においては、本学のみならずグループの方々の極力を仰ぐとともに、オープンキャンパスをはじめとした広報活動を充実させた。

学 科	志願者	合格者 (補欠合格者)	入学者
看護学科	203名	128名(7名)	98名
理学療法学科	116名	96名(0名)	76名
作業療法学科	51名	38名(0名)	31名
計	370名	265名(7名)	205名

### 3) 経費の効率化

#### ○予算管理

学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金、個人研究費、大学支援研究費について、会計ソフトの目的別予算管理を使用し予算管理を行った。さらに、予算残高を研究者と共有するためにシステム(科研費プロ)を導入した。

#### ○手順

大学の会計処理は、金額が大きいだけでなく処理が複雑化している。特に令和4年度と令和5年度は専門学校2校と大学1校が、同じ土地と建物に共存しているため経費を按分する必要がある。その為、帳簿の記帳にも膨大な時間を要するため、一部をCSVで取り込む形式に変更した。それにより記帳の時間を1/3程度短縮できた。

## 7、特記事項

### 1) 開学記念コンサート

5月21日 開学記念コンサートを開催した。

第一部 2号館1階 メインホール 16時～ 保護者、学生対象

第二部 体育館 18時～ 学校職員、病院職員、地域、業者の方等対象

演奏者：バイオリン奏者 中澤 万紀子様

ピアノ奏者 金山 千春様

バンド演奏 国士無双

### 2) 臨床シミュレーションセンターの活動

学部学生の臨床実践力を向上させるために、シミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成するとともに、臨床、医療スタッフへの研修のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成する活動に貢献した。

関連施設ならびに学外の医療従事者を対象にした活動は、以下のとおりである。

また、教職員、学生を対象としたBLS研修を、計12回実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福岡和白病院 院内研修	7回	4回	5回	1回 *2回 中止		3回 *1 回中 止	4回	3回	*1回 中止	1回 *1回 中止	*1回 中止	1回
看護専門学校 教員対象研修		1回	1回	2回								
福岡看護専門学校 3年生学内実習				2回	1回					2回		
池友会救急・集中 ケア認定ラダーⅢ研 修会議				1回				1回				
池友会救急・集中 ケア認定ラダーⅢ研 修										1回 トライ アル	2回 準備/ 研修	
日本救急看護学会 終末期ケア委員会					1回 撮影							
日本救急看護学会 セミナー委員会					* 1 回 中 止							
日本救急看護学会 外傷看護委員会				**1回 中止								
九州救急看護認定 看護師会シミュレーション 研修									1回			

教員資格及び教育内容等の自己評価書

令和健康科学大学リハビリテーション学部

理学療法学科・作業療法学科

2022 年度



様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
リハビリ テーショ ン学部 理学療法 学科	8人	2人	4人	3人	17人	9人	12人	0人	63人	14人	
リハビリ テーショ ン学部 作業療法 学科	5人	1人	2人	3人	11人	9人	10人	0人	76人	3人	
計	13人	3人	6人	6人	28人	18人	22人	0人	139 人	8人	

※非常勤数に兼務教員を含む。

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
※大学ホームページ シラバス参照 (URL: <a href="https://www.rhs-u.ac.jp/disclosure/release_study/syllabus/">https://www.rhs-u.ac.jp/disclosure/release_study/syllabus/</a> )					

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

**\*開学1年目で見学実習のみの実施のため評価せず**

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲 (理学療法学科)	開講時期	関連講義名	開講時期
病院等での見学	1年通年	基礎臨床実習Ⅰ	1年前期
		基礎臨床実習Ⅱ	1年後期
病院等での実践	2年後期～	検査測定臨床実習Ⅰ	2年後期
		検査測定臨床実習Ⅱ	3年前期
		評価臨床実習	3年後期
		地域臨床実習	3年後期
		総合臨床実習Ⅰ	4年前期
		総合臨床実習Ⅱ	4年前期

臨床実習の見学又は実践する範囲 (作業療法学科)	開講時期	関連講義名	開講時期
病院等での見学	1年通年	基礎臨床実習	1年通年
病院等での実践	2年前期～	地域臨床実習	2年通年
		評価臨床実習	3年通年
		総合臨床実習Ⅰ	3年後期
		総合臨床実習Ⅱ	4年前期
		総合臨床実習Ⅲ	4年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
<input type="radio"/>	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
<input type="radio"/>	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
<input type="radio"/>	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
<input type="radio"/>	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
<input type="radio"/>	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
<input type="radio"/>	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
<input type="radio"/>	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
<input checked="" type="radio"/>	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
<input type="radio"/>	自己点検・評価の体制がない。	1

\*開学1年目であり体制は整備されているが、機能的な運用については検討中である。

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	大学評価委員会
委員名（委員長）	学長（委員長）、宮里看護学部長、稲川リハビリテーション学部長、辻看護学科長、永崎理学療法学科長、近藤作業療法学科長、竹元看護副学科長、富永教授、古後教授、渡邊事務長、江島事務長代行
組織の開催頻度	適宜開催
組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業評価の実施と結果のフィードバック（教務委員会）</li> <li>・ 教育改善のための研修会の計画（FD委員会）、実施（研究委員会・各学科）</li> <li>・ 認証評価（外部評価）の対応</li> </ul>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表予定（URL：                    ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

\*開学1年目で文科省によるAC期間中のため評価せず。ただし、文科省による実施調査を受け特に問題ない旨を通知されている

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	辻看護学科長（委員長）、永崎理学療法学科長、近藤作業療法学科長、古後教授、谷川准教授
	改善の仕組みの実際	完成年度後のカリキュラム改定に向け、教務委員会の下部組織としてカリキュラム編成部会を設置し、3年目を目途に始動する予定である。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省による実地調査を令和3年10月に受け、細かい指摘はあったものの現状では大きな問題はないとの通知を得ている。</li> <li>・ 本学では、大学評価委員会において関係部署と連携し、内部質保証のための自己点検・評価を行っている。大学評価委員会の構成メンバーは、学長、学部長、学科長、事務部らにより構成され、大学の質的保証について、3ポリシーを起点とした教育および運用等の短期・中期目標および計画の達成度（自己評価）について自己点検・評価を実施し、改善・向上に取り組む。</li> </ul>
--